

2009年4月6日

金融危機の影響、最も小さいのは MENA 地域 エジプト、サウジアラビアが最もはやく回復基調に

世界銀行は先月 31 日発表した経済見通しの中で、2009 年の世界全体の成長率がマイナス 1.7%にまで落ち込むと予測した。

金融危機の影響が新興国にも波及し、成長見通しは昨年 11 月の前回予測のプラス 4.5%からプラス 2.1%に大幅に下方修正された。

しかし、新興国でも地域差がみられ、なかでも中東・北アフリカ (MENA) 地域の底堅さが目立つ。世銀は同地域の成長が「新興国で最も (金融危機の) 影響が小さい」と指摘した。前回予測のプラス 3.9%からプラス 3.3%に成長の鈍化が予測されるもの、下方修正幅は地域別にみてもっとも低い。

ドイツ銀行のプラーベート・ウェルス・マネジメント部門のチーフ・ストラテジスト、マーシャル・ギトラー氏は、世界的な低金利政策が助長したレバレッジ拡大と、その後の信用収縮による世界不況からの脱却には時間を要すると分析する。MENA 地域に関しても、十分な資金流動性を有しているとしながらも、向こう数年は世界金融危機の影響が考えられると述べた。しかし、世銀同様、ギトラー氏は MENA 地域の景気減速が他の国・地域と比較して緩やかなものになるとし、金融危機を好機ととらえた国内外の投資マネーが機会を探っていると指摘する。

また、ドイツ銀行は MENA 地域に関する最新レポートの中で、最も早く景気減速から脱却する国として、エジプトとサウジアラビアをあげている。その理由として、投機的な不動産価格の上昇がなかったこと、外国銀行に対する低い債務比率、適切な財政・金融政策などを指摘した。

出所：Emirates Business 24/7、世界銀行「Global Economic Prospects 2009 – Forecast Update」